

大学院都市持続再生学コース 東大まちづくり大学院 シラバス

講義名	持続可能な都市圏計画
担当教員名	横張真・村山頭人・瀬田史彦
単位数(コマ数)	1.5単位 (7コマ)
講義曜日・時限	土曜日・3～5限
講義目的	<p>本演習の対象とする宇都宮都市圏は、これまで栃木県の中心都市圏として発展を続けてきた。都市圏の中心都市である宇都宮市は、2008年の第5次総合計画の中で、土地利用の適正化、拠点化の促進、ネットワーク化の促進を目指した「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」の方向性をいち早く示した。現在は、2018年の第6次総合計画、2019年の第3次都市計画マスタープラン・立地適正化計画の下、芳賀・宇都宮 LRT（新交通システム）の整備、宇都宮駅東口の市街地再開発事業、釜川沿いの景観まちづくり、スマートシティ事業等を通じて市街地の再生を推進する一方、2018年の市街化調整区域の整備及び保全の方針の下、開発許可と地区計画を通じて市街化調整区域の集落の維持にも取り組んでいる。今後、市街地内の都市農地に保全に向け、地方都市としては先駆的に、生産緑地地区の指定も検討する。このように、宇都宮市は、日本の都市政策の「優等生」と言える。</p> <p>しかし、昨今、都市を取り巻く状況は大きく変化している。世界経済フォーラムは、人間社会を取り巻く様々なリスクの発生可能性と影響の分布を「グローバル・リスク・ランドスケープ2021」として示しているが、これに登場するリスクには、気候変動施策の失敗、極端な気候、水不足、情報インフラの機能停止、自然災害、感染症、食糧危機、社会の不安定などが含まれている。実際、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行して社会経済状況が大きく変化し、また、気候変動の影響は近年日本でも降雨パターンの変化、台風の凶暴化、夏の暑熱環境の悪化という形で現れている。また、日本独自の状況としては、人口や経済の縮小、人口の超高齢化、財政難などがある。こうしたリスクの特徴は、その要因や影響が都市・都市圏・国を超えて世界的に（グローバルに）つながっていることである。例えば、中国・武漢で発生して瞬刻に世界中に広がった新型コロナウイルスは、国際的な交流を大きく制限するとともに、東京都心を中心とする大都市圏の脆弱性を露呈し、逆に宇都宮のような国土軸上の安定した地方都市圏の可能性を示唆している。</p> <p>本演習では、宇都宮都市圏を対象に、「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」を中心とするこれまでの都市政策の流れを基礎としながら、人間社会を取り巻く現在そして将来の様々なリスク（突発的なショックと進行性のストレス）に適切していくためのグランドデザイン及びまちづくり提案を検討することとする。</p>
成績評価方法	グループとしての発表内容・成果物に基づく。また学生相互評価を行いそれを加味する場合がある。

No	講義日程	講義時限	講義者	講義形式	講義タイトル
1	12月2日	3～5限	村山・瀬田	対面	イントロダクション・班分け（見学予備日）
2	12月9日	3～5限	村山・瀬田	対面	見学（宇都宮市を予定、可能な方々は終日で）
3	12月16日	3～5限	村山または瀬田	対面	班作業
4	12月23日	3～5限	村山または瀬田	対面	班作業
5	12月30日	3～5限	—	対面	（年末のため講義なし・院生室で作業は可能）
6	1月6日	3～5限	横張・村山・瀬田	対面	中間ジュリー
7	1月13日	3～5限	—	対面	（学部共通テストのため休講・院生室で作業は可能）
8	1月20日	3～5限	村山または瀬田	対面	班作業
9	1月27日	3～5限	—	対面	（修論審査のため休講・144号室で作業は可能）
10	2月3日	3～5限	横張・村山・瀬田	対面	最終ジュリー
11					
12					
13					
14					
15					
16					